

### 基本目標3 子どもの健全な心身を育むための教育環境の整備

#### (1) 次代の親の育成

##### [ 現状と課題 ]

現代の子どもは少子化や核家族化により家庭では少ない兄弟姉妹の中で育ち、地域では子ども同士が集団で過ごす機会が減少しているため、人間関係をつくる力が弱くなってきているとともに、大人になっても社会性が身につけていないことが指摘されています。

将来、親となり、社会を築いていく重要な役割を担う子どもたちが、社会の大きな変化の中で、自立して主体的に生きていくための力を社会の様々な場で培うことが大切です。

本市においては、ふれあい体験を通して、命の大切さに対する取り組みを進めています。

ふれあい体験では、自分の親に対する感謝の気持ちが生まれる光景もうかがえるため、今後も、小中高校生の頃から小さな子どもにふれあう機会を確保し、将来親世代となる子どもたちに家庭の大切さや子どもを生き育てる喜びを伝えていくことが必要です。

##### [ 施策の方向性 ]

- 中学生、高校生等が、子どもを生き育てることの意義を理解し、子どもや家庭の大切さを理解できるようにするため、乳幼児とふれあう機会を確保します。

##### [ 具体事業一覧 ]

事業名	事業内容	所管課	現状 (20年度実績)	平成26年度 目標
ふれあい体験等の推進	命の大切さに対する取り組みの充実を図ります。	保健センター	実施校数：4校	継続

## (2) 学校の教育環境等の整備

## 〔 現状と課題 〕

豊かで便利な社会の中で利己的な意識、自己責任の考え方の欠如、物質的な価値や利便性、効率性の重視等、社会全体のモラルが低下するほか、生活環境や生活習慣にも変化が生じています。子どもの成長とともに豊かな人間性・健康と体力・確かな学力を育むために、学校教育の充実や地域資源を活用した学力の向上が重要です。

本市においては、モデル校の指定や特色ある学校づくりなど学校教育の充実を図るとともに、子ども学習支援事業などにより児童生徒の学習を支援しています。今後もすべての子どもが人権意識を培い、学んだことを、生活の中で活かしていく力を育成する教育が必要です。また、そのために必要な学力を身につけられる指導体制が必要です。

## 〔 施策の方向性 〕

- 地域及び家庭と学校との連携・協力を図り、地域の実情に応じ、地域に根ざした特色ある学校づくりを進めます。
- 子どもが社会の変化の中で主体的に生きていくことができるよう、知識・技能の確実な修得と思考力、判断力、表現力等を育成するため、子ども、学校及び地域の実態を踏まえて創意工夫し、子ども一人ひとりに応じたきめ細かな指導の充実や外部人材の協力による学校の活性化等の取り組みを推進します。

## 〔 具体事業一覧 〕

事業名	事業内容	所管課	現状 (20年度実績)	平成26年度 目標
学校区の適正化の調査研究	各学校の児童・生徒数や地域の状況を踏まえ、学校区の適正化を図ります。	教育総務課	懇談会開催回数： なし	拡充

事業名	事業内容	所管課	現状 (20年度実績)	平成26年度 目標
子ども学習支援事業の充実	まなびセンターに教育研究所としての機能をもたせ、多様化する児童生徒の学習を支援し、能力の開発を図ります。また、教職員の研修を行い、その資質の向上を図ります。	まなびセンター	プラネタリウム一般投影及び学習投影 参加者数（一般）： 11,974人、 （幼保小中109団体）  パソコン研修： 26講座 定員560人、 申込645人 （H21年度）  関市児童生徒科学作品展出品数： 小学生157点 中学生41点 合計198点 （H21年度）	プラネタリウム投影： 縮小 パソコン研修： 縮小 関市児童生徒科学作品展： 拡充
学校人権同和教育推進事業の推進	学校における人権教育を強力に進め、住みよいまちづくりをめざします。	学校教育課	研修会実施率： 100%	継続
小学校との情報交換、連携強化	幼稚園や保育園と小学校との教育実践の交流や研修を通して、一貫性のある教育をめざし、小学校との情報交換会を含んだ研修会を開催します。	学校教育課	会議回数： 4回	継続
校内LAN環境の充実	情報社会に対応していくために、市内小中学校のPC教室にコンピュータを導入し、児童・生徒の情報活用能力を育成します。	学校教育課	児童生徒用パソコン導入率（パソコン1台当たりの児童生徒数）： 小学校5.7人 中学校3.5人 （H21年度）	拡充
小学校英語活動の推進	小学校からの外国語（英語）活動の推進・充実を図るとともに、国際理解教育を推進し、国際性を養成する教育に努めます。	学校教育課	実施率：100%	継続
環境教育の推進	よりよい環境の創造のための実践的態度・能力の育成のために、環境教育の推進に努めます。	学校教育課	環境教育実施率： 100%	継続
小学校低学年個性化教育支援非常勤講師の配置（わかあゆプラン）	「たくましく生きる力」の育成を図る必要があります。そのために、義務教育の始まりである低学年から個性を伸ばす教育を推進します。	学校教育課	配置率：100% （33人以上の学級で加配）	継続
道徳・福祉・人権教育の推進	豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を図るため思いやりの豊かな心を養う教育の推進を図ります。	学校教育課	共生学校推進会議の立ち上げ率： 100%	継続
モデル校の指定	小学校、中学校を研究校、指定校に指定し、研究成果を定期的に公表します。	学校教育課	発表校：2校 研究・開発校： 5校	継続

## 1 基本目標別の施策展開

事業名	事業内容	所管課	現状 (20年度実績)	平成26年度 目標
特色ある学校 づくりの推進	地域や学校の特性に応じ、各学校が創意工夫をこらし、地域と連携して特色ある学校づくりを推進します。	学校教育課	実施率：100%	継続
小中学校教職 員研修の推進	教職員の人間性と専門性を磨き、児童生徒一人ひとりの良さや可能性を伸ばす指導力の向上を図ります。	まなびセンター	—	—
学校評議員会 の充実	豊かな心と自ら学ぶ意欲を持ち、思考力・判断力・表現力を身につけた健全な児童を育成するため、学校・家庭・地域社会が連携協力し、一体となって子どもを育てるため、各校の学校評議員会の開催と実践、学校支援ボランティア構想を推進します。	学校教育課	学校評議員会 開催回数： 2～3回	継続

### (3) 家庭や地域の教育力の向上

#### [ 現状と課題 ]

家庭はすべての教育の出発点であり、親子の絆や家族のふれあいを通じて、子どもの人間形成の基礎を培う最も重要な役割を持っています。しかし、核家族化、地域とのつながりの希薄化、働く女性の増加等、子育て家庭の環境が大きく変化しており、親の家庭教育に関する考え方にも変化が生じています。子どもにとって家庭は最初の集団で人間成長の基盤となることを再認識し、本来果たすべき役割を見つめ直していくことが必要です。

本市においては、家庭教育学級などを通して家庭の教育力の向上に努めています。

今後も引き続き、両親が基本的な育児知識や方法を学び、相談できる場やしつけ、子どもとの接し方、遊び方などを学習する場を提供するなど、家庭の子育て力を高める必要があります。また、子どもが遊びや地域活動を通して、地域の人々との交流や関わりがもてるよう、機会づくりが必要です。

#### [ 施策の方向性 ]

- 身近な地域において、子育てに関する学習機会や情報の提供、相談や専門的人材の養成などの家庭教育に関する総合的な取り組みを関係機関が連携するとともに、その成果を広く共有し、きめ細かな家庭教育支援を実施します。

#### [ 具体事業一覧 ]

事業名	事業内容	所管課	現状 (20年度実績)	平成26年度 目標
乳幼児期家庭教育学級の充実	子どもの身体や心の成長と発達や、しつけや家庭の関わり方について学ぶとともに、親同士の仲間作り、情報交換の場を提供します。	生涯学習課	開催箇所数： 6箇所	継続
家庭教育学級の充実	幼稚園、保育園、小・中学校の親の会やPTAで開催する家庭教育学級の内容の充実を図ります。	生涯学習課	開催箇所数： 小・中学校 30校 幼・保育園等 20園	継続
乳幼児の本との出会いづくり	1歳時健診時に、ブックスタートパック（赤ちゃん向けの絵本や、イラスト入りのアドバイス集）の配布を行い、子どもたちの心身が健やかに成長していくよう応援しています。	図書館	ブックスタート パック配布率： 96.4%	継続
主任児童委員の活動	地域で発生する個別事案について関係行政機関と連携を密にし、児童の家庭環境・社会環境の情報を収集しながら相談・支援活動を行います。	子育て支援課	14地区 28人	継続